資料-2

有識者の方々から頂いたご意見と対応（案）

		ご意見	対応（案）
1	稲村座長	・秋田をはじめとした風力発電は全国的に見ても目玉になり得るものと思われる。政府が推し進める脱炭素化にも関係するものであり、風力発電は東北の特徴的な取り組みとして取り扱っては如何か。	・東北ブロックの特徴において風力発電の記載をするとともに、将来像等において、風力発電等エネルギーー大拠点を目指す旨を記載しました。 ・また、小目標６－１は「再生可能エネルギー・新エネルギー等によるグリーン社会の実現」として、東北としての基軸が再生可能エネルギー・新エネルギーである旨を記載しました。
2	稲村座長	・各県や各分野で様々なビジョンや計画がある。それらの理念や主要な取り組みに留意した総合的な社会資本整備計画が望ましい。	・各種ビジョン等を収集しつつ、策定プロセスにおいて、各事業部局が入ったワーキンググループ、各県・仙台市・新潟市が入った実務担当者会議等を、ご指摘の視点での確認も関係者で行いながら作成しました。

		ご意見	対応（案）
3	稲村座長	・重点目標5のデジタル・トランスフォーメーション関係では、政府全体で推し進めているものであるので、既に東北で行われている具体事例などを示しつつ、東北においても活発化していく旨をしっかり表現すべきと思われる。	・将来像等において「デジタル化を駆使した担い手確保のモデルとして」の表現により、全国のモデルとなるべくデジタル化を推進する意思表示を行いました。 ・3（5）②では、将来の人手不足への対応、担い手確保、インフラ老朽化、災害対策の観点からICT施工や維持管理面での取り組み進展を記載するとともに、成瀬ダムの先駆的な取り組みも記載しました。 ・小目標5－1は「東北復興「働き方・人づくり改革プロジェクト」等によるデジタル化・スマート化」に変更し、東北色とプロジェクトによる活発姿勢を出しました。
4	横田理事長	・SDGsの取扱いをどのように書くのか。特に重点目標3の持続可能で暮らしやすい地域社会の実現では、人口減少や高齢化が予想以上に進んだ東北としては、その先行地域としてSDGsや持続可能という言葉をより意識すべき地域と思われる。	・はじめににおいて、SDGsの記載とともに、「持続可能で強靭な国土と質の高いインフラ整備」と、取り組む際の「包摂性」（誰一人残さない）や「参加型」（全員参加で取り組む）といった点を踏まえる旨を記載しました。 ・将来像等において「人口減少・高齢化が顕著な東北であるからこそ持続可能な地域社会の形成」の旨記載し、重点目標3において、「人口減少・高齢化が進んだ東北であるからこそ、高齢者、障がい者、子ども、子育て世代等、全ての人が安全・安心で不自由なく生活できるバリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりを推進し、持続可能で暮らしやすい地域社会・地方創生を実現する」旨を記載しました。

		ご意見	対応（案）
5	佐野先生	・今冬の新潟での高速通行止め、宮城県大崎でのホワイトアウト多重事故などを踏まえて、雪国だからこその目標設定や書きぶり（取り組み）を充実すべきと思われる。	・3（1）①において、気候変動の影響による気象災害の激甚化・頻発化としての降雨災害とともに、東北道のホワイトアウトの多重事故や高速道路の通行止め等が頻発している旨を記載しました。 ・小目標1－2「③冬期も含めた交通機能確保」では、「近年の短期間の集中的な大雪や繰り返し発生する大規模な車両滞留を踏まえ、大雪時の道路交通確保に向けた取組を強化する」旨を記載し、関係機関の情報共有による広域迂回の設定や援護等を行う「情報連絡本部」の取組を記載しました。 ・小目標3－1では「雪の克服とバリアフリー～」として、雪の克服を特出しして、地域生活面でも雪対策を推進する旨を表現しました。
6	浜岡先生	・アフターコロナの状況や前回からの状況変化を踏まえての説明からは、適切に小目標を設定していると理解出来る一方で、前回計画のレビューをしたうえで、出来たこと、出来なかったこと、引き続き頑張らなくてはならないこと等の説明をすることも必要と思われる。	・第44回社整審計画部会（R2.4.30）において、第4次社重計画で目標を達成していない指標や、とりわけ相対的に評価が良くない重点目標についての説明がなされる等のフォローアップが実施されています。 ・一方で、次期計画は、第4次計画の延長線上として、計画策定後の状況変化を踏まえて、新しい視点を追加する旨の説明がなされ、今回は、自然災害の激甚化･多頻度化や国土強靱化の動き、インフラ老朽化、デジタル革命、グリーン化、（新型コロナウイルス感染症の拡大）等の変化から重点目標を設定し、東北版においても変化等を踏まえ小目標を設定しています。

		ご意見	対応（案）
7	浜岡先生	・SDGsをどう捉えるか。（広い範囲での考え方になるので、総括的に配慮する記載とあわせて、様々な取り組みにおいて、外向けにSDGsの取り組みとして謳っているものがあるので、その場合は個々での記載も必要となるかも知れない。検討してみて欲しい）	・はじめににおいて、SDGsの記載とともに、「持続可能で強靭な国土と質の高いインフラ整備」と、取り組む際の「包摂性」（誰一人残さない）や「参加型」（全員参加で取り組む）といった点を踏まえる旨を記載。SDGsは広範に係るものであり、社会資本整備重点計画の中長期的な目的や重点目標の設定に際しても、それを踏まえたものであるので、その全てに配慮している認識から、個々の目標や取り組みにおいてSDGsを記載することはしないこととしました。
8	浜岡先生	・自動運転について、先端的取り組みの受け皿として東北を書き込めると良いように思う。高齢化対策として、道の駅上小阿仁での自動運転実用化、その他道の駅での拠点化整備など、先頭を走るものもあり、東北として、自動運転レーンの受け皿も含めて自動運転促進を打ち出すことも検討して欲しい。	・小目標５－２「新技術の社会実装によるインフラの新価値の創造」において、道の駅等での自動運転の取り組み等を掲載するとともに、「福島イノベーションコースト構想や産学官連携による自動運転技術の実用化に向けた取組」を取り組みメニューとして記載しました。

		ご意見	対応（案）
9	竹内先生	・重点目標5のデジタル・トランスフォーメーションについて、大学では、次代を担う観点と、土木のイメージ向上の観点から、近年はICTをテーマにセミナー等を開催しリクルートにも繋げている。東北は高齢化も進展しており、担い手不足も顕著な地域であると思われるので、ICTは積極的に推進するべく地域であると思われる。	・将来像等において、「デジタル化を駆使した担い手確保のモデルとして」の表現により、東北は全国のモデルとなるべくデジタル化を推進する意思表示を行いました。 ・3（5）②では、将来の人手不足への対応、担い手確保、インフラ老朽化、災害対策の観点からICT施工や維持管理面での取り組みの進展を記載するとともに、成瀬ダムの先駆的な取り組みも記載しました。 ・小目標５－１は「東北復興「働き方・人づくり改革プロジェクト」等によるデジタル化･スマート化」に変更し、東北色とプロジェクトによる活発姿勢を出しました。
10	林田領域長	・サプライチェーンの国内回帰等を強化・拡大していかなければならない。また、東京一極集中是正の受け皿づくりにもつながっていくが、東北地方のインフラの整備状況やエネルギーの他地域との優位性が重要であり、重点目標5、6の項目に対して優位性を示さなければいけないと思われる。	・小目標５－１は「東北復興「働き方・人づくり改革プロジェクト」等によるデジタル化･スマート化」に変更し、東北色とプロジェクトによる活発姿勢を出しました。 ・小目標６－１は「再生可能エネルギー・新エネルギー等によるグリーン社会の実現」に変更し、将来像や目指すべき姿においても、エネルギー分野での活発な取組が行われている旨や、今後も一大拠点を目指す旨を記載し、ご指摘の優位性や姿勢を示しました。

		ご意見	対応（案）
11	林田領域長	・新たな計画を作成する際には、前回計画の棚卸しが必要と思われるが、どのように考えているのか。	・第44回社整審計画部会（R2.4.30）において、第4次社重計画で目標を達成していない指標や、とりわけ相対的に評価が良くない重点目標についての説明がなされる等のフォローアップが実施されています。 ・一方で、次期計画は、第4次計画の延長線上として、計画策定後の状況変化を踏まえて、新しい視点を追加する旨の説明がなされ、今回は、自然災害の激甚化・多頻度化や国土強靱化の動き、インフラ老朽化、デジタル革命、グリーン化、（新型コロナウイルス感染症の拡大）等の変化から重点目標を設定し、東北版においても変化等を踏まえ小目標を設定しています。
12	稲村座長	・既存の東北圏広域地方計画から設定した将来像・4つの基本方針と、今回設定している6つの重点目標・16の小目標とのリンクを示す資料を、参考資料に加えた方が良い。	（別添のとおり資料を追加しました）

		ご意見	対応（案）
13	稲村座長	・ポストコロナにおいても、インバウンドは東北経済の活性化に向けて重要なことであり、関係機関においてハード・ソフトの取組を引き続き進める必要がある。 素案（現原案）の記載内容を再確認し、参考資料においてはインバウンドの取組も追加掲載して頂きたい。	・素案（現原案）においては、小目標４－２にて、多言語対応、拠点整備、公共交通における公衆無線LAN環境整備等の取組や事業の記載があり、参考資料においては、素案（現原案）に合わせて1ページ追加掲載しました。
14	稲村座長	・参考資料の図表等においては、東北ブロックが7県対象であることに留意して作成・掲載するとともに、全国値を用いているものについては、出来るだけ東北値として、東北の特徴付けをした方が良い。	（修正しました。基本を7県のデータとし、困難な場合は、図表に適宜、データの対象範囲を記載しました）

		ご意見	対応（案）
15	竹内先生	・横串となる重点目標については、それに記載される事業・取組が他の重点目標の達成にも関わるものである旨を明確に記載すべきと思われる。また、その他の重点目標に関連する事業については、その他の重点目標にも関連する旨の記載がある方がわかりやすい。	・第２章１（２）において、「なお、重点目標２（インフラメンテナンス）、５（デジタル・トランスフォーメーション(DX)）、６（脱炭素化、空間の多面的・複合的利活用）については、重点目標１（防災・減災）、３（持続可能な地域社会）、４（経済の好循環）にも密接に関連し、全ての社会資本整備において留意すべき事項となっている。」と記載しました。 ・また、第3章においては、重点目標5、6に記載の事業については、関連する重点目標1、2、3、4にも記載しました。（重点目標5、6では再掲として記載しました。）
16	竹内先生	・（説明を聞いて雪の印象があまり残らなかったため、）雪の克服は東北の特徴かつ大きな課題であるはずなので、素案及び参考資料において、しっかりと伝える工夫をした方が良いと考える。	・参考資料の第１章３（１）自然災害の激甚化、頻発化、切迫において、雪による障害を加えました。（降雪に伴う交通障害の事例を入れました） ・また、参考資料の小目標1-2では、ページを追加し、特に「③冬期を含めた交通確保」について、対策としてのダブルネットワーク、除雪、共同記者発表等の内容を視覚的な図表・写真を用いて追加しました。

		ご意見	対応（案）
17	横田理事長	・横串となる重点目標、特に「デジタル・トランスフォーメーション」に関しては、高齢化が進む東北であるからこそ進めるという整理のなかで、記載する事業・取組（参考資料においては掲載事例）については、デジタル化が最終目的ではなく、その背景（課題）や目的・効果等も記載し、持続的な東北（だれ一人残さない）なかで必要な施策である旨、理解を高める工夫が必要と思われる。	・重点目標５（デジタル･トランスフォーメーション(DX)）の「現状と課題」において、人口減少・高齢化、担い手不足の状況と絡めて取組の必要性を記載することと合わせ、「目指すべき姿」においても、それと絡めてデジタル化を推進する旨記載しました。 ・また、小目標5-1、5-2においても同様に、上記を意識して加筆しました。 ・さらに、説明用資料2では、小目標5-1、5-2の例示において、デジタル化の概要にとどまらず、その目的・効果等も追記しました。
18	横田理事長	・だれ一人取り残さない視点で「ユニバーサルデザイン」は重要な取組となる。新たな取組も重要であるが、これまで取り組んできたことの継続や、例えば、点字ブロックの維持・更新やその支援なども考慮する必要があると思われる。	・小目標3-1において、「市町村におけるバリアフリーに関する基本構想等の策定と、その推進体制を強化し、維持・更新から整備に係る総合的なバリアフリー推進を図る。」旨の記載を行い、主要取組においても、「東北ブロックユニバーサルデザイン推進本部の設置による基本構想等はじめ整備･更新の加速化」等、ご指摘の点字ブロックの維持・更新やその支援を含んだ取組を記載しました。

		ご意見	対応（案）
19	貝山先生	・サプライチェーンを支援する高規格道路ネットワークが必要であり、東北においては特に雪のリスクがあるため、雪に強いネットワークが必要である。 また、今後は、石巻～大崎～新庄～酒田などの横軸がサプライチェーン上や戦略上で重要になってくるが、横軸は雪の問題も多く抱えているとともに、海外への玄関口である港と絡めたネットワーク確保という観点からも急がれる。	・重点目標4の目指すべき姿において、「我が国の競争力強化等に資する日本海・太平洋2面活用を促進する物流ネットワークの構築等」を記載し、横軸に関連する取組や道路整備等について記載しました。また、期待されるストック効果として、新庄酒田道路の事例（舟形マッシュルーム）を記載しました。 ・雪への対応としては、小目標1－2の③冬期も含めた交通機能確保において、「大雪に関する緊急発表」等の各種取組を記載しました。
20	貝山先生	・車移動が不可欠な配置になっている地域構造をとらえると、高齢化・少子化が進む東北においては、バスなどの公共交通をいかに立て直すかが非常に重要である。	・小目標3－2において、「公共交通網を始めとするネットワークで結び～魅力的なコンパクトシティの形成を推進する」と記載するとともに、地域公共交通の確保として、「地域公共交通計画の策定促進」「地域公共交通確保維持改善事業等を活用し、地域一体となった地域公共交通の活性化・継続を支援」等の取組を記載しました。

		ご意見	対応（案）
21	貝山先生	・自転車が年齢を問わず活況ななか、自転車を使用した観光は、東北の観光活性化の切り口になると思われる。自転車専用道路の整備はもとより、電車やバスへの積載可能とする取組や、観光地間でのハード・ソフトのネットワーク形成など、総合的に進められると良い。自転車の活用は、脱炭素社会の実現の観点からも良い取組になると思われる。	・3（3）「③自然や地勢、景観、文化、スポーツ等による国内外交流の拡大」において、自転車を活用した観光地域づくり（サイクルツーリズム等）の取組が進められている旨の記載を行い、さらに、小目標4－2に「自転車と公共交通機関の連携に関する取組促進（サイクルトレイン、サイクルバス等）」「サイクリングルートの設定とサインの整備やサポート体制の整備等促進」を記載しました。 ・その他、自転車関係については、観光関係以外でも小目標3－1、小目標3－2、重点目標6にも記載しております。
22	林田領域長	・多くの機関に跨がる広範な計画になっているが、計画実現においてはオペレーション、すなわち、計画自体を進め管理する主体と、個々の事業・取組を進める担当などの役割分担、そして、計画自体も含めた認識共有が重要である。	・社会資本整備重点計画は、道路、交通安全施設、鉄道、空港、港湾、航路、都市公園、下水道、河川、砂防、海岸等と、これら事業と一体となってその効果を増大させる事業・取組が対象であり、多くの機関に跨がりますが、作成各段階において関係機関で打合せ等を行い、協議、調整、共有を図りつつ進めており、個々の事業・取組を進める担当や計画自体の認識共有が図られるプロセスを経ました。 ・また、ご指摘を踏まえ、第4章「計画を推進するための方策」において、フォローアップの実施を記載し管理するとともに、今後のプロセスや策定後においても、公表・公開に努め、計画自体の認識共有を高める工夫をします。

		ご意見	対応（案）
23	浜岡先生	・参考資料において、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現についても掲載すべきと思われる。	・参考資料《説明用資料1》の３（６）「グリーン社会の実現に向けた動き、ライフスタイルや価値観の多様化」において、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すなかで、東北ブロックでは、再生可能エネルギー活用等の取組が進んでいる」と記載し、小目標６－１では「〇2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向け、持続可能性を高める社会基盤の構築と賢い使い方」と記載しました。
24	浜岡先生	・アフターコロナ、ポストコロナの「新たな日常」における地域構造等に向けた記載はあるものの、直面している「コロナ禍」における取組等の記載があっても良いのではないか。 防災・減災に入るのか、結局はデジタルトランスフォーメーションに帰着するのか等についても、議論が必要かと思われるが、検討して欲しい。	・小目標5-2において、「ポストコロナ時代の「新たな日常」の構築のため、通信インフラの整備等、デジタル技術の活用による行政手続きの迅速化や暮らしにおけるサービスの向上を推進することは、新型コロナウィルスなど感染症拡大時などにおける移動の制約下での経済活動の継続を支えることにもつながっていく。」旨を記載しました。

		ご意見	対応（案）
25	佐野先生	・参考資料の小目標1-2において、「大雪に対する共同記者発表」が掲載されているが、その目的や効果がわかりやすい記載とすべき	大雪に対する共同記者発表については、目的や効果を記載して修正しました。 具体的には、表現方法を、「道路利用者に注意を促す大雪に対する共同記者発表の取組」として修正し、目的についても記載しました。
26	佐野先生	・参考資料において、小目標6-1「再生可能エネルギー・新エネルギー等によるグリーン社会の実現」でカーボンニュートラルを進めるとしているなかで、小目標4-1「国際競争力向上やサプライチェーンの国内回帰等を支援する基盤整備」の小名浜港の事例において、石炭船の入港を取り上げており、同一資料内でのミスマッチが感じられる	・これまでの個々の地域における事情やそれによる取組を否定するものではなく、地域の事情も含めた総合的な判断等により、目標に向けた取組が進められていくものと考えます。 　小目標4-1に示した小名浜港の基盤整備は、当港が平成23年に国際バルク戦略港湾に指定されて以降、令和3年4月、同年9月（予定）に運転を開始する最新鋭の高効率石炭火力発電所への燃料供給と広域的な資源輸入の効率化を目指して取り組んできた事業です。一方で、小目標6-1に示したカーボンニュートラルに向けた取り組みは、水素燃料の利活用拡大、火力発電へのアンモニア混焼など、今後取り組みに着手し、検討を加速させなければならない課題であると考えています。 　ここに示した2つの目標は、矛盾するものではなく時間軸の中で徐々に移行していくテーマであると認識しているため、「石炭船」の記載を「バルク船」に修正し、記述を残す考えです。

		ご意見	対応（案）
27	竹内先生	・参考資料の小目標3-3「東京一極集中是正の受け皿づくりに向けた多核拠点相互の共生・連携の推進と基盤整備」において、中心市街地の活性化等の推進が記載されているが、一方の原案においては、中心市街地の活性化等の推進は小目標3-2「コンパクト＋ネットワークによる美しく力強い空間・地域拠点を形成」に記載されているので整合を図ること	・中心市街地の活性化等の推進については、小目標3-2、3-3の双方に関連するものであるため、原案においては双方に記載します。（3-2に取組・事業が記載されているので、3-3には再掲として記載されます）
28	横田理事長	・道路整備は観光面において時間距離の短縮、意識距離の短縮といった点で大変重要であると考えている。新型コロナウィルス感染症により大きな打撃を受けている観光面について、夢を描けるような資料作成に努めて欲しい	・東北ですすめる格子状骨格道路ネットワークの整備（高規格道路のミッシングリンク解消等）については、参考資料等において、その位置関係やイメージが伝わるように図を用いるとともに、原案には道路整備による観光活性化面でのストック効果事例を記載しました。（具体には、東北中央自動車道の整備により、福島市や米沢市内の観光施設においては来訪者が増加、さらに、道の駅「伊達の郷りょうぜん」が新たな観光・交流拠点の場を形成するなど、広域ネットワークが形成され、更なる交流人口の増加と活発な観光交流が期待される。とした内容を加えています。）

		ご意見	対応（案）
29	稲村座長	・今後は、小目標2-2「新技術の活用等によるインフラメンテナンスの高度化・効率化」、小目標2-3「集約・再編等によるインフラストックの適正化」、重点目標5「インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション」が、社会資本整備の鍵になると思われる。是非、それらの取組については、積極的に力を入れていって欲しい	・原案どおりとし、今後の事業等推進にあたっては、計画策定後に生じる取組も含め、関連分野の積極的な推進を図って参る所存です。